

「コーポラティブハウス」施工で培ったクオリティ 想いの詰まったハコを つくるのが私たちの仕事です

ダブルボックス

ダブルボックス(世田谷区上祖師谷、和田重文社長、03・5969・9388、<http://doublebox.org>)

在の同社のオリジナルティ基盤となつている。同社に寄せられるご相談は、建

築分野におけるダイバーシティーを見出し、いろいろなチャレンジを続けている会社である。

創業5年目とまだ会社自体は若い、多種多様な依頼が舞い込んでくる。

和田社長は建設会社に22年間現場監督として勤め、RC造の集合住宅『コーポラティブハウス』(入居希望の数世帯が共同で建てる集合住宅。一般的なマンションと違い、入居者の好みに応じた住居にすることが可能なため、各戸それぞれ間取りや仕上げが変わる)を永年手がけてきた。コーポラティブハウスは名のある建築家に関わる事例の多い物件で、耐久性やクオリティだけでなく、ディテールへのこだわりやセンスを実現する技術力が要求されるため、その経験の蓄積が現



©Jeremie Souteyrat

披露山公園での新築工事



©UID_photo: Ryogo Utatsu

銀座のサーモン専門店の内装



©Atsushi Ishida

ドイツの山小屋をイメージした屋台

築家や設計事務所からの依頼が9割を占めている。取扱う案件はさまざまで、「社内」の中心部に土俵をつくったオフィス」「青山にある屋台村の小屋」「新工法を使用した三角屋根の家」「海の見える大きな別荘」「老朽化した古民家のリノベーション」は、たまた「自動三輪車の荷台に本屋さんを乗せる」など、トリッキーで面白い依頼が集中する。

和田社長は「変わった建物や難しい建物、新たなチャレンジの案件があれば『まず、ダブルボックスに相談してみたら?』とお客様に連想していただけのような会社にした」と意気込みを語っている。